

藤堂 高虎が築いた城下町、
武家屋敷を訪ねて

伊賀市

伊賀上野城下町

慶長13（1608）年、伊賀と伊勢の領主となった藤堂 高虎（1556～1630）は、急いで伊賀上野城の大改修に取り掛かりました。大坂（大阪）の豊臣家との決戦が間近に迫っていたためです。続いて高虎が着手したのは、城下町づくり。その町並みは、基盤の目のように整っていました。

現在、城下町を歩くと、随所で忍者関連のモニュメントなどを見かけます。平成29（2017）年に伊賀市が忍者市宣言をしたことを実感します。また、高虎が基礎を築いた町割りが残りと、どこかで武家屋敷にも出会えます。今回は、「いがうえの語り部の会」のモデルコースに沿って歩きます。

取材・文：中村 真由美



「上野市（忍者市）」駅の駅舎



「だんじり会館」



展示風景



鳴鹿坂



“下屋敷の道”

今回の散策の起点は、伊賀鉄道「上野市」駅です。印象的な外観の駅舎（国登録有形文化財）を眺めていると、「忍者市」駅の表示に気付きました。伊賀市が忍者市宣言をしたのにもない、同駅も忍者市駅として親しまれているのです。高虎が大改修した伊賀上野城一帯は、現在は「上野公園」となり、人々の憩いの場となっています。駐車場（有料）もあるため、車でお越しの場合は利用するとよいでしょう。一方、城下町は「上野市

（忍者市）」駅の南側に広がりますが、今回は、一旦北へ向かいます。すると、数分程度で姿を現したのが「だんじり会館」です。

城下の秋の風物詩として知られる「上野天神祭」の様子を再現・展示する館内に入った途端、目に飛び込んできたのは、絢爛豪華なだんじり（楼車）です。「だんじり」は、京都祇園祭の山鉦の形態を模した囃子屋台です。内部は三畳程度の広さがあり、鉦や太鼓や笛を担当する10人ほどでぎゅうぎゅう詰めでした」と、子どもどころから祭りに関わってきた松原さん。大型スクリーンに映し出され

る迫力ある映像に加えて、鬼や能面を被った鬼行列の様子も間近に見ることができました。

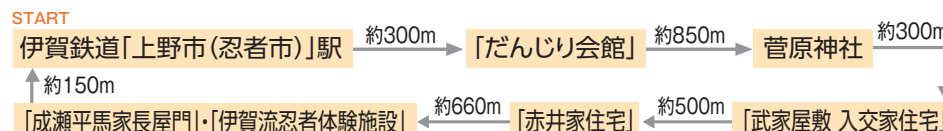
下屋敷の道を歩く

「だんじり会館」を見学した後は、長い階段を降り、風情のある鳴鹿坂を眺め、住宅地の中を続く細い道を南へ向けて歩きます。この辺りは、城の外堀の東側に位置していて、藤堂 新七郎家と藤堂 玄蕃家の下屋敷（別邸）や家臣たちの屋敷がありました。そのため「下屋敷の道」と呼ばれています。両家は、藤堂家の家臣団の中でも高い禄高と家格を有して



今回、ご案内いただいたのは「いがうえの語り部の会」の松原 進さんです。丁寧な説明に、江戸時代に時間旅行している気分になりました。

■ 行程図 所要時間／約2時間30分 ※所要時間は、おおよその目安です。





「赤井家住宅」



「成瀬平馬家長屋門」

前に立ち寄りたいのが、「成瀬平馬家長屋門」(市指定文化財)です。同家は、江戸時代に加判奉行を勤めた家柄。「家老や侍大将は世襲ですが、加判奉行は最も優秀な人物が選ばれました」との説明通り、堂々とした長屋門は、格式の高さを

誇るといふ同住宅に別れを告げた後は、もう1軒の武家屋敷へ。その名の通り「忍び(伊賀者)」が住んでいたという上野忍町の家並みが続く中を進むと、犬矢来(犬除け用の柵)が目を引く長屋門に気が付きました。「赤井家住宅」です。同家は、丹波国黒井(兵庫県)に居城を構えていましたが、高虎に召し抱えられて足軽大将に。現在地に屋敷を構えたのは、江戸時代末期のころで、同時期の面影をとどめる長屋門に加えて、明治時代中期

長屋門と

新たな忍者体験スポット

のころに建てられた主屋や土蔵・土塀なども併せて国の登録有形文化財となっています。なお、同屋敷は、市民の交流拠点として整備され、さまざまな体験の場として活用されています。

2軒の武家屋敷で武士の暮らしに想いを馳せた後は、再び伊賀鉄道「上野市(忍者市)」駅に向けて歩きますが、その



中森家住宅



菅原神社



拝殿



「武家屋敷 入交家住宅」の主屋



津田 親重氏の襖絵

いました。現在は、新七郎家の下屋敷「とまざま園(非公開)」があり、近くには、中森家の屋敷もたずんでいきます。江戸時代、新七郎家の家臣であった中森家の門や土塀は、今も往時の姿をとどめていました。なお、同家の主屋・離れなどは、門や土塀も含めて国の登録有形文化財になっています。

松原さんに藤堂藩の家老たちの俸禄や暮らしぶりなどを教わりながら散策していると、やがて菅原神社に到着。「だんじり会館」で展示していたのは、同神社の秋の祭礼「上野天神祭の様子で、神輿行列、鬼行列、だんじり行列で構成

武家屋敷で江戸情緒に浸る

「天神さん」と呼び慕われる菅原神社にお参りした後は、2軒の武家屋敷をめざして歩きます。二之町筋を過ぎ、三之町筋に出てからは通りに沿って西へ向かうと、重厚な長屋門とその奥に大きな茅葺き屋根が見えてきました。「武家屋

敷入交家住宅(入館有料)で、県の文化財に指定されています。江戸時代の武家屋敷は、その大半を藩が所有し、藩士に貸し与えていました。藩士は職務内容や俸禄に見合った住宅に住んでいたのです。入交家がこの屋敷を拝領したのは、享保18(1733)年のこと。各部屋のたたずまいに質実剛健な武士らしさを感じながらも、天井板に描かれた落書きのような絵には思わず頬が緩んでしまいました。また、日本画家の津田親重氏から、近年寄贈された襖絵も展示され、見応えがありました。(展示は不定期)春には庭の80株のボタンの花が咲き

問「いがうえの語り部の会」

TEL 090-92264-1360



「だんじり会館」前に建つ芭蕉句碑



「伊賀市上野図書館」前の芭蕉句碑



「伊賀流忍者体験施設」※

※印の写真は取材先から提供していただきました